【樹木の部屋】

タチバナ（ミカン科ミカン属　Citrus tachibana）

和名：タチバナ（橘）　別名：ヤマトタチバナ、ニッポンタチバナ

英名：Citrus tachibana

ムクロジ目　常緑高木　　原産地：日本

花言葉：追憶　　花の色：　白

← 写真-１　タチバナの樹姿
撮影日：2015 年 10 月 24 日
撮影場所：橘寺(奈良県明日香村)にて
撮影者：M　さん

↘ 写真-２　タチバナの小枝
撮影日：2015 年 10 月 24 日
撮影場所：橘寺(奈良県明日香村)にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　タチバナの果実
撮影日：2015 年 10 月 24 日
撮影場所：橘寺(奈良県明日香村)にて
撮影者：M　さん

明日香村の橘寺を訪れた際、寺の境内に植栽されていました。日本に古くから野生していた日本固有の柑橘で、和歌山県、三重県、山口県、四国地方、九州地方の海岸に近い山地にまれに自生しているそうです。近縁種にはコウライタチバナ(Citrus nipponokoreana)があり、萩市と韓国の済州島にのみ自生しているそうです。(萩市の自生種は、国の天然記念物。絶滅危惧 IA 類に指定されています)。

外観はキシュウミカンやウンシュウミカンに似ていますが、酸味が強く生食用には向かないそうです。コウライタチバナの苗が、タチバナの名称で園芸店で売られていることがあるそううです。ニホンタチバナではないそうです。

＜ちょっと一言＞

＊非時香実(ときじくのかぐのみ)」

古事記および日本書紀の垂仁天皇の段の最後に登場する話。

田道間守(だぢまもり)が天皇の命を受け、不老不死の霊果(非時香実)を探して中国へ・・。田道間守は苦労してこれを持ち帰ったものの、すでに天皇は崩御されており、陵墓の前で泣き叫んだまま息絶えてしまった。という話です。この実が橘。

タチバナの語源もタヂマモリが転じたとする説や、田道間守の名そのものが、「田の道で(香りが)目立つ存在」の意を持つとも考えられているそうです。また、果実は木菓子と呼ばれていたことから、田道間守は菓子の神として中嶋神社(兵庫県)に祀られています。